

V 課題整理

1. 公共交通サービスの使いやすさの向上

●公共交通ネットワークによる拠点間の連携

- ・自主運行バス、デマンドタクシー、民間路線バスが、市内の拠点を結ぶ公共交通ネットワークを形成しており、今後も維持していくことで「焼津市立地適正化計画」で目指す拠点間の連携を図っていきます。

●広域的な交流を促す公共交通ネットワークの整備・強化

- ・公共交通での広域的な交流を支援するため、広域交流の玄関口である鉄道駅と市内各所を連携する公共交通ネットワークの整備・強化を検討することが求められます。また、観光やビジネスなどで初めて焼津を訪れた方にも利用しやすい公共交通となるよう、総合案内板の設置など利用環境を整備することが求められます。

●自主運行バスの非効率性の改善と利便性の向上

- ・自主運行バスは2路線とも広いエリアをカバーしているため、長い運行ルートと運行時間になっています。今後も生活を支える運行を確保・維持していくため、利用促進策の実施や利便性の向上とともに、需要に応じた効率的な運行内容を検討する必要があります。特に大井川焼津線は、経路変更後及びデマンドタクシー本格運行後の利用状況を検証の上で、運行内容の見直しを検討する必要があります。

●利用者需要や地域ニーズに合わせた運行内容の検討

- ・民間路線バスについては、広域路線も含め利用状況を分析し、今後のまちづくりを踏まえながら、利用者の需要や地域のニーズに合わせた運行内容を検討し、補助額が増大している路線については、利用状況に合わせた改善策が求められます。

●公共交通空白地域への対応

- ・東益津地区の下根方地域では、デマンドタクシーの試験運行を実施しましたが、現在は運行をしておりません。豊田地区の一部は、以前に路線バスが廃止となり、現在もバス路線が無い状況です。これら2地域など、公共交通空白地域においては、住みやすい魅力あるまちづくりを進める上でも、地域が主体となった組織と連携し、地域の交通手段について検討することが求められます。

●隣接市町との相互交流を支える公共交通の維持と移動ニーズに対応した運行内容の見直し

- ・本市と隣接する市町との間では、相互に通勤・通学等の移動需要がありますが、市町をまたぐバス路線の利便性は高いとはいえない状況です。大井川地区では藤枝駅等への移動ニーズがあり、地域間幹線をはじめとする広域的な公共交通ネットワークの維持と移動ニーズに対応した運行内容の見直しを検討する必要があります。

●商業施設や医療機関等へのアクセス強化

- ・市民の移動目的地として焼津駅や市立病院の他、地域の商業施設や医療機関を望むニーズがあります。商業施設や医療機関等へのアクセスがしやすい運行内容による利便性の向上が求められます。

2. 結節点の乗り継ぎ利便性の向上

焼津駅、西焼津駅、市立総合病院、大井川庁舎は本計画における交通の結節点として位置付けており、「焼津市立地適正化計画」においても都市拠点や地域拠点に位置付けられています。

●焼津駅、西焼津駅における鉄道とバス及びバス相互の乗り継ぎ利便性の向上

- ・焼津駅、西焼津駅は、鉄道とバスがつながる主要な交通結節点ですが、鉄道に比べるとバスは便数が少なく、最終便は焼津大島線の22時台となっています。
- ・鉄道とバス、バス相互の乗り継ぎを考慮したダイヤによる利便性向上の検討が必要です。

●市立総合病院におけるバス相互の乗り継ぎ利便性の向上

- ・市立病院には、大井川地区を運行する自主運行バス、大島三和地区デマンドタクシー、焼津駅、西焼津駅方面、大井川庁舎へ向かう路線バスが乗り入れており、結節点としての機能が強化されました。
- ・このため、バス相互の乗り継ぎがしやすいダイヤの考慮や、総合案内板の設置や待合環境の整備などが求められます。

●大井川庁舎における交通結節点としてのさらなる機能強化

- ・焼津駅から大井川庁舎までの基幹軸として焼津大島線を延伸しており、大井川焼津線及びデマンドタクシーとの乗り継ぎ拠点として、結節点の機能が大きく強化されました。
- ・今後も、大井川地区の利便性向上を図る中で、地区内と地区外の移動がしやすい乗り継ぎを考慮するなど、さらなる機能強化が求められます。

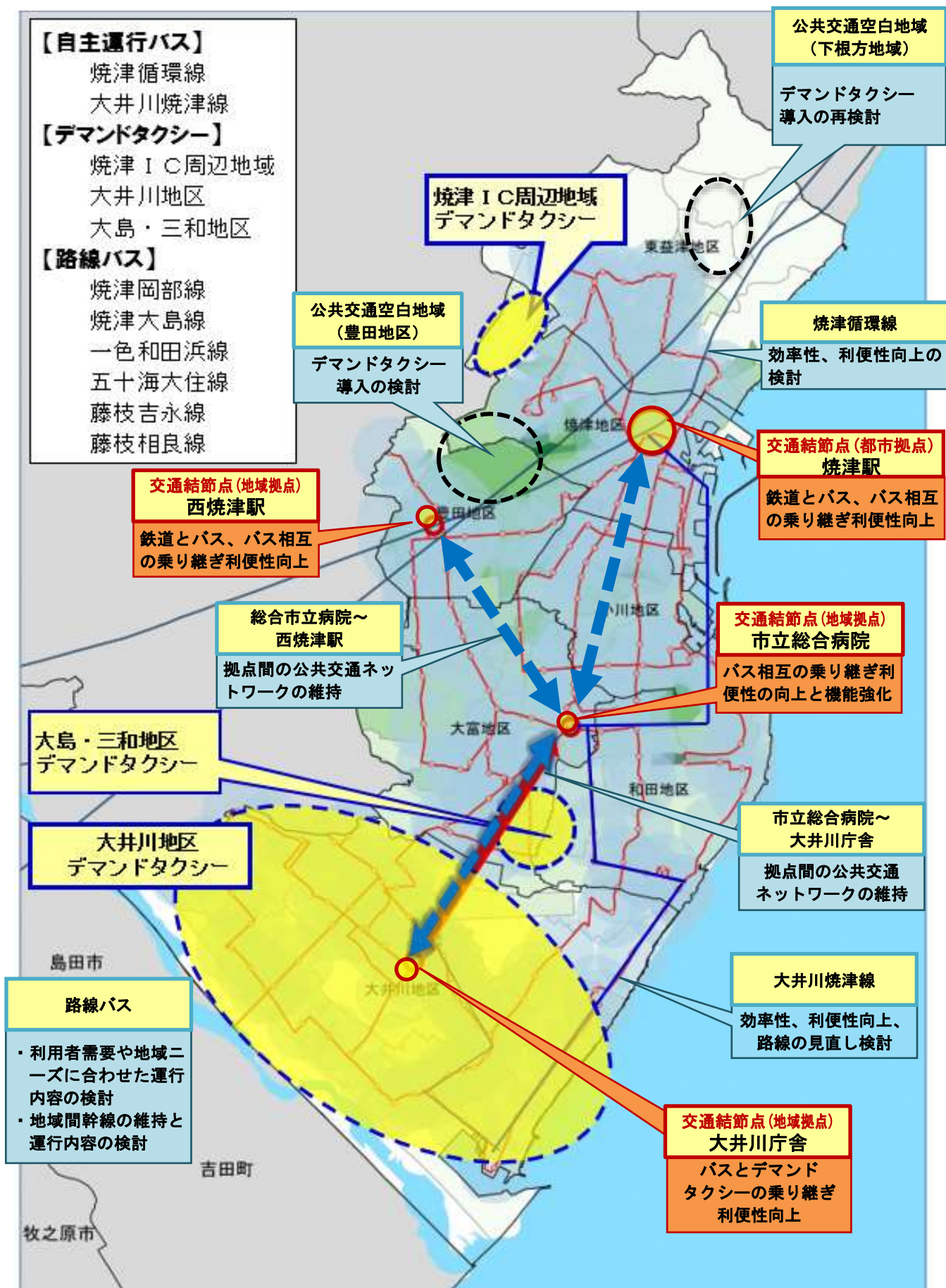


図 焼津市における公共交通の課題

VI 基本的な方針と目標

1. 基本的な方針と目標

焼津市の現状と公共交通の利用状況等の分析からみえる地域公共交通の課題への対応として、公共交通が市民の暮らしを便利にし、活気あるまちづくりに寄与することを目指します。また、第6次焼津市総合計画の将来都市像である「やさしさ 愛しさ いいもの いっぱい 世界へ広げる 水産文化都市Y A I Z U」、及び焼津市立地適正化計画で目指す「スマート新時代 豊かな暮らしが未来へつながるまち 住まいる City Yaizu」の実現に向け、公共交通がその一助となるよう、焼津市地域公共交通計画の基本的な方針と目標を以下のとおりとします。

●基本的な方針

「市民が暮らしやすく 誰もが移動しやすい 交通環境が充実したまち やいづ」

●基本的な目標

【目標1】利用者需要や地域ニーズに的確に対応した公共交通の整備

公共交通の整備にあたっては、広域的な移動手段の確保に配慮しながら、効率的で持続可能な公共交通を運営するため、既存の公共交通サービスにとらわれず、新たな公共交通サービスへの転換も含め、市民との合意形成を図りながら整備していきます。

【目標2】まちづくりと連携した幹線軸と支線による公共交通ネットワークの形成

焼津駅、西焼津駅、市立総合病院、大井川庁舎は、利便性が高い幹線軸で連携し、周辺の居住エリアを支線でカバーすることで、市内各所及び他市町へ公共交通で移動しやすい交通環境を整えます。また、立地適正化計画の目指すまちづくりと連携し、拠点間の円滑な移動を確保した公共交通ネットワークを形成します。

【目標3】結節点における乗り継ぎ利便性や結節機能の向上

結節点となる4つの拠点では、乗り継ぎ利便性や交通結節点としての機能を向上させ、幹線軸を活かした利用しやすい交通環境を整えます。特に、広域交通の窓口となる駅前広場は、観光などで初めて焼津市を訪れた人にわかりやすい案内表示をするなど、利便性向上を図ります。

【目標4】 交通事業者、地域住民、行政の協働による公共交通の利用促進

地域に根ざした公共交通の整備を推進するため、交通事業者、地域住民をはじめとする地域の関係者、行政の三者がそれぞれの立場から地域にとって真に必要な公共交通について共に考え、利用促進を進めるとともに、地域の公共交通を地域住民の手で守り育てる意識の醸成を図ります。

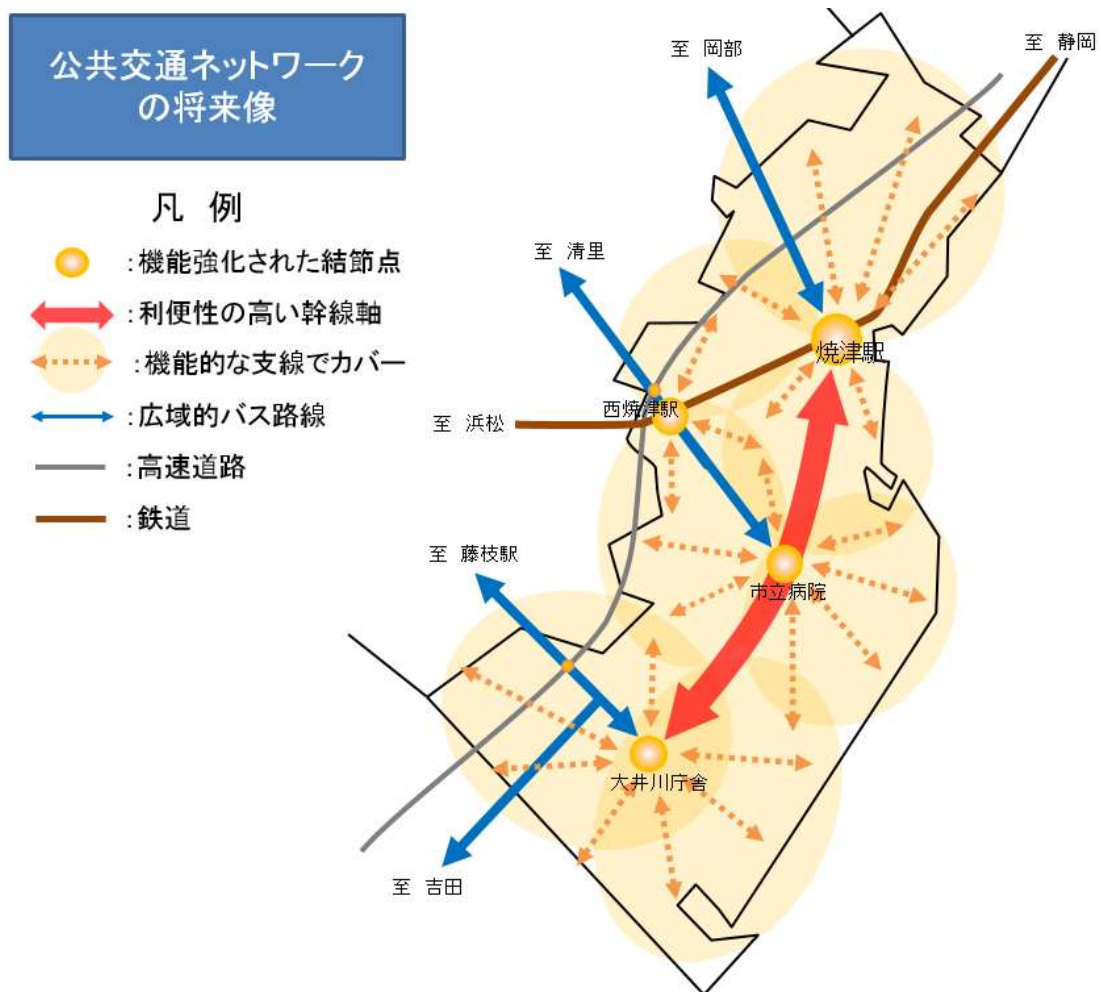
2. 今後の公共交通ネットワーク

鉄道駅につながる路線を「幹線」、そのうち複数の市町を通る路線を「地域間幹線」と位置づけ、将来にわたって運行していきます。

また、焼津駅、西焼津駅、市立総合病院、大井川庁舎を「結節点」と位置付け、その周辺や地域の拠点と結節点に接続する路線を「支線」と位置付けます。

これらにより公共交通ネットワークを形成し、立地適正化計画と連携した持続可能な公共交通を目指します。

なお、本計画では将来的な公共交通ネットワークのあるべき姿（将来像）を見据え、計画期間である5年間において実施する具体的な事業について記載するものとします。



方針・目標・施策・成果指標

基本的な方針									
市民が暮らしやすく 誰もが移動しやすい 交通環境が充実したまち やいづ									
目標	具体的な施策	成果指標							
<div style="background-color: #fce4d6; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">1. 利用者需要や地域ニーズに的確に対応した公共交通の整備</div>	<ul style="list-style-type: none"> 1 大井川地区における運行内容の見直しと改善 2 地域ニーズや利用状況を踏まえたデマンドタクシーの運行検討 3 商業施設や医療機関等へのアクセス強化 4 自主運行バス車両の更新 5 民間路線バスの運行内容の見直し 6 自動運転技術・先進モビリティの導入を目指した研究 	<p style="text-align: center;">公共交通利用者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">R5 9.7回/人</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➔</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">目標値 (R10) 10.8回/人</td> </tr> </table>	R5 9.7回/人	➔	目標値 (R10) 10.8回/人				
R5 9.7回/人	➔	目標値 (R10) 10.8回/人							
<div style="background-color: #bbdefb; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">2. まちづくりと連携した幹線軸と支線による公共交通ネットワークの形成</div>	<ul style="list-style-type: none"> 1 幹線軸及び拠点間の地域間幹線の維持 2 利用状況に応じた機能的な支線の運行の維持 	<p style="text-align: center;">自主運行バス平均収支率</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">R5 13.9%</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➔</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">目標値 (R10) 17.0%</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">デマンドタクシー利用者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">R5 3,384人</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➔</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">目標値 (R10) 3,550人</td> </tr> </table>	R5 13.9%	➔	目標値 (R10) 17.0%	R5 3,384人	➔	目標値 (R10) 3,550人	
R5 13.9%	➔	目標値 (R10) 17.0%							
R5 3,384人	➔	目標値 (R10) 3,550人							
<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">3. 結節点における乗り継ぎ利便性や結節機能の向上</div>	<ul style="list-style-type: none"> 1 結節点における乗り換えし易いダイヤの見直し 2 結節点における公共交通の利用に関する案内表示の強化と待合環境の充実 3 大井川庁舎における結節点の機能強化 	<p style="text-align: center;">結節点におけるバス利用者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">R5 2,170人</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➔</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">目標値 (R10) 2,585人</td> </tr> </table>	R5 2,170人	➔	目標値 (R10) 2,585人				
R5 2,170人	➔	目標値 (R10) 2,585人							
<div style="background-color: #e2efda; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">4. 交通事業者、地域住民、行政の協働による公共交通の利用促進</div>	<ul style="list-style-type: none"> 1 利用促進イベントの充実 2 時刻表や経路検索の改善 3 地域の会合への利用啓発等の実施 4 さまざまな形態での移動手段の検討 5 観光振興と連携した公共交通利用の促進 	<p style="text-align: center;">地域による検討組織の数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">R5 3箇所</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➔</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">目標値 (R10) 4箇所</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">イベント等の実施回数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">R4 31回</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">R5 37回</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➔</td> <td style="width: 48%; text-align: center;">目標値 (R10) 31回</td> </tr> </table>	R5 3箇所	➔	目標値 (R10) 4箇所	R4 31回	R5 37回	➔	目標値 (R10) 31回
R5 3箇所	➔	目標値 (R10) 4箇所							
R4 31回	R5 37回	➔	目標値 (R10) 31回						

2. 具体的な施策

【目標1】 利用者需要や地域ニーズに的確に対応した公共交通の整備

施策 1-1 大井川地区における運行内容の見直しと改善

実施概要

大井川地区では利便性向上を目的に、令和4年度に地区内の移動手段として全域にデマンドタクシーを導入し、地区外への移動手段として「焼津大島線」を大井川庁舎まで延伸する再編を実施しており、バスとデマンドタクシーを組み合わせたネットワークを形成しています。

その後の利用状況などを検証した上で、大井川地区デマンドタクシーと焼津大島線については改善策を検討し、大井川焼津線については運行内容の見直しを検討していきます。

検討にあたっては、地域の代表者で組織した焼津市地域公共交通大井川分科会において協議を行い、大井川地区における再編の継続と改善を図っていきます。



実施主体

◎大井川分科会 / ◎焼津市 / 交通事業者

施策 1 - 2 地域ニーズや利用状況を踏まえたデマンドタクシーの運行検討

実施概要

デマンドタクシーの運行にあたっては、行政主導による地域ニーズの把握が困難であり、公共交通は「提供されるもの」ではなく、「地域自ら作り・守り・育てるもの」との認識に立つ必要があります。「焼津インターチェンジ周辺地域」では、地域が主体となって協議会を設立し、市と連携して運行内容や停留所について検討し、登録の呼びかけを行ったことで、2年間の試験運行を経て、令和3年度より本格運行となりました。

これらを踏まえ、公共交通空白地域については、地域からの申出により市と協議を開始し、地域が主体となった協議会を設立することを基本として導入を検討します。また、自主運行バスについて、指標（「Ⅶ計画の達成状況の評価」に記載した目標値）を継続的に下回る場合は、路線の廃止を含めた抜本的な見直し・改善策を検討することとし、その対策の一つとしてデマンドタクシーや新たな移動手段への転換についても、市と地域が連携して検討していきます。

表 デマンドタクシー運行の検討対象路線・エリア

公共交通空白地域（地域主体型）	自主運行バス路線(市・地域連携型)
○豊田地区の一部 ○下根方地区	○焼津循環線 ○大井川焼津線

焼津インターチェンジ周辺地域での協議会



焼津市地域公共交通大井川分科会



実施主体

◎地域住民 / ◎焼津市 / 交通事業者

施策 1-3 商業施設や医療機関等へのアクセス強化

実施概要

デマンドタクシーはバスに比べて車両が小さいことや、自由な経路によるきめ細やかな運行のため、運行区域内に新たな停留所を検討することが可能です。このため、利用者から要望がある商業施設や医療機関への停留所新設を検討し、これら施設へのアクセスを強化することで利便性の向上を図ります。

また、バス路線については、市立総合病院への通院に適したダイヤ設定などについて検討を行います。

横山医院停留所（大井川地区）

かわさきクリニック停留所

医療機関の
デマンドタクシー
停留所



(焼津 IC 周辺地域)

実施主体

◎焼津市 / 交通事業者 / 商業施設・医療機関

施策 1-4 自主運行バス車両の更新

実施概要

自主運行バス車両は市が所有する6台で運行しておりますが、経年劣化や走行距離の増大により故障が発生するリスクが高くなることから、旅客の安全輸送の充実を図るため、計画的な車両更新が必要です。また、脱炭素社会に対応したEV車両や、高齢者や障害者も利用しやすいバリアフリー車両など、さまざまな車両が開発されているため、導入を検討していきます。

更新の際には、負担が軽減するよう、国庫補助制度や県の補助制度を活用し、計画的に実施していきます。

しずてつジャスト
ライン(株)の車両



EV車両



FCV車両（水素バス）

実施主体

◎焼津市 / ◎地域公共交通会議

施策 1-5 民間路線バスの運行内容の見直し

実施概要

民間路線バスについては、主に通勤・通学に利用され、市の公共交通ネットワークにおいて重要な役割を果たしています。しかしながら、持続可能な公共交通を実現する上で補助額が増大している路線については、改善策を検討する必要があります。

一色和田浜線については、他路線に比べ運行距離が長く利用需要が低いエリアも運行しているため効率が悪く、補助額が最も多くなっています。このため、その他路線も含め、運行事業者と協議しながら、利用状況に応じた経路の見直しや運行頻度の調整など、路線の効率化を実施することで、収支の改善を図っていきます。

実施主体

◎交通事業者 / ◎地域公共交通会議

施策 1-6 自動運転技術・先進モビリティの導入を目指した研究

実施概要

近年、AI 技術を応用した自動運転技術の発展には目覚ましいものがあり、各地の自治体でその実証実験が実施されています。このような状況を踏まえ、本市においても公共交通における自動運転技術を活用した先進的なモビリティについて、幹線軸への導入を見据え、積極的に調査・研究をしていきます。

また、観光交流を目的としたグリーンスローモビリティの実証実験を本市で実施しました。今後は、生活交通への活用や、自主運行バス路線の補完の可能性など、検討をしていきます。

自動運転車両（日進市）



グリーンスローモビリティ



実施主体

◎焼津市 / ◎交通事業者

【目標2】まちづくりと連携した幹線軸と支線による公共交通ネットワークの形成

施策2-1 幹線軸及び拠点間の地域間幹線の維持

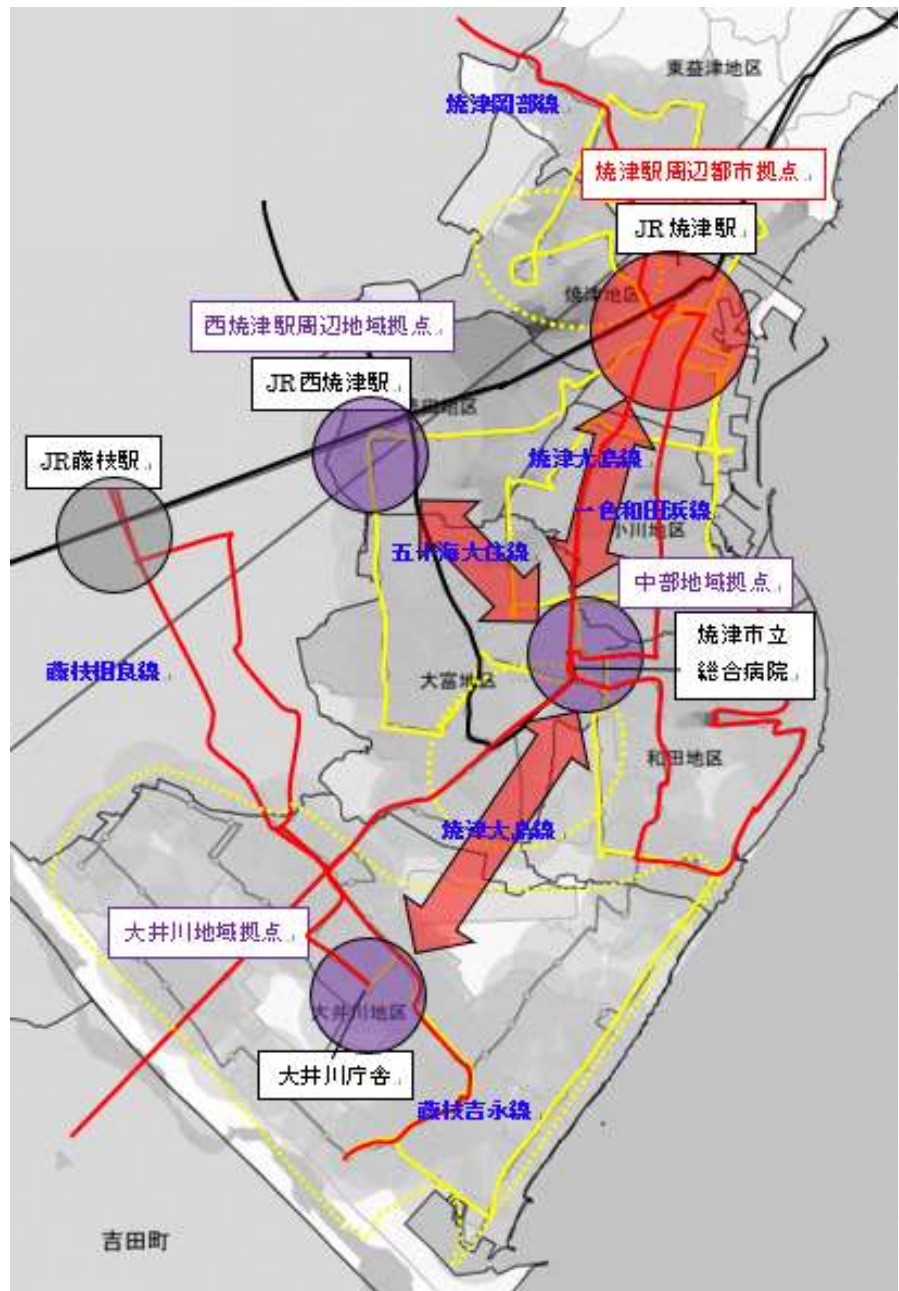
実施概要

鉄道駅につながる路線を「幹線」、そのうち複数の市町を通る路線を「地域間幹線」と位置づけ、公共交通ネットワークの主要な路線として機能しています。

また、立地適正化計画で掲げる「多極地域連携都市」(P10)において、都市拠点及び地域拠点を結ぶ幹線連携軸としての役割を担っており、今後も幹線軸及び地域間幹線の維持を行います。

<p>【幹線】 焼津大島線 一色和田浜線</p>
<p>【地域間幹線】 五十海大住線 焼津岡部線 藤枝吉永線 藤枝相良線</p>

※各路線(運行系統)の位置付けと役割はP52以降に記載



実施主体

◎交通事業者 / ◎地域公共交通会議 / ◎静岡県

施策 2 - 2 利用状況に応じた機能的な支線の運行の維持

実施概要

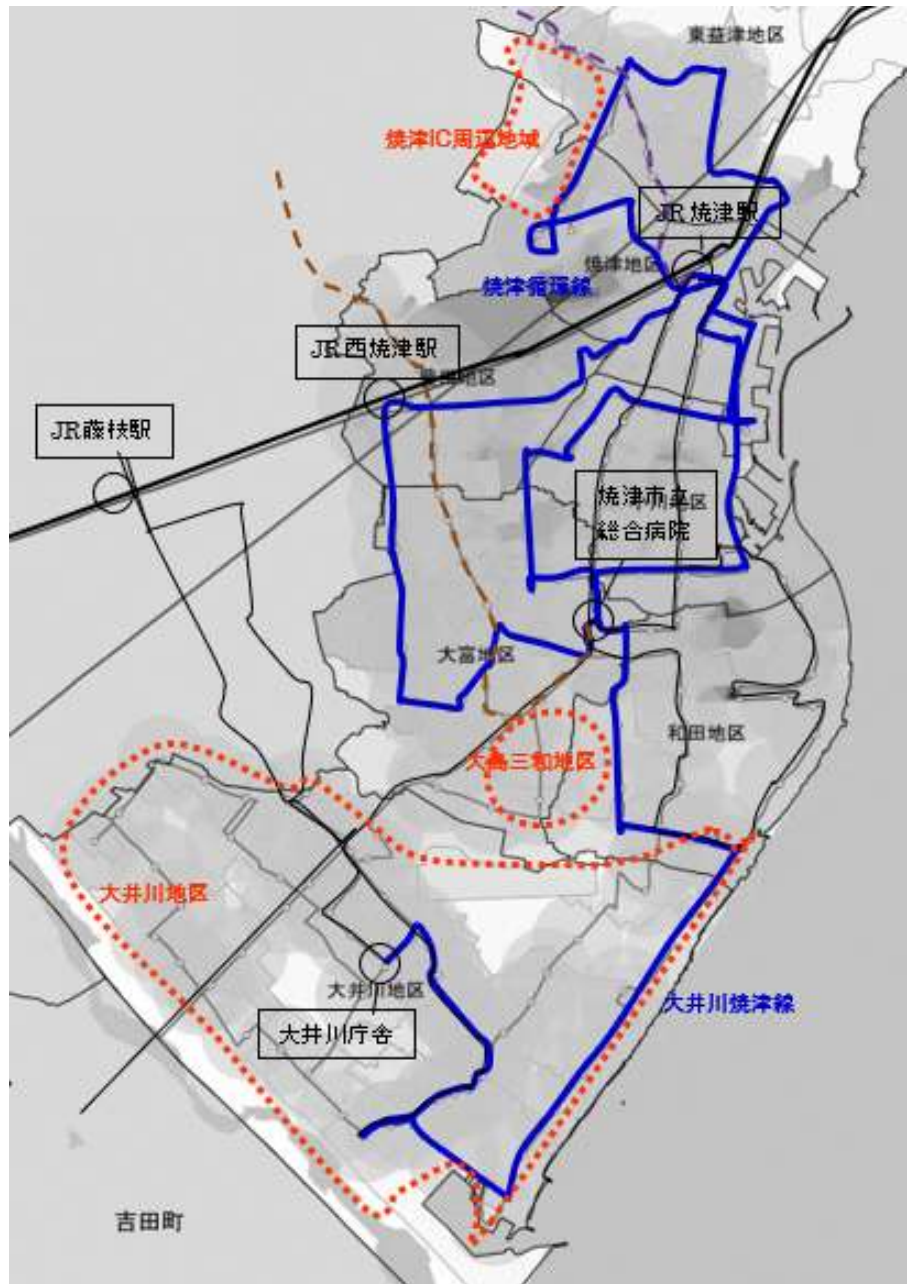
市内各地から結節点への移動を担う「支線」として、自主運行バス及びデマンドタクシーを運行し、市民の誰もが交通サービスを享受できるように運行を行っていきます。また、立地適正化計画において、都市拠点及び地域拠点とその周辺をカバーする支線連携軸として役割を担っており、今後も自主運行バスとデマンドタクシーの維持と利便性の向上を図ります。

【支線】

(自主運行バス)
 焼津循環線
 大井川焼津線

(デマンドタクシー)
 焼津 I C 周辺地域
 大島・三和地区
 大井川地区

※各路線(運行系統)
 の位置付けと役割は
 P52 以降に記載



実施主体

◎地域公共交通会議 / ◎焼津市 / 交通事業者

【目標3】 結節点における乗り継ぎ利便性や結節機能の向上

施策3-1 結節点における乗り換えし易いダイヤの見直し

実施概要

幹線軸と支線を組み合わせた交通ネットワークでは、結節点の乗り継ぎ利便性の向上が求められます。このため、鉄道に合わせたバスのダイヤ設定、路線バスの運行に合わせた自主運行バス及びデマンドタクシーのダイヤの設定を行うとともに、利用者に対して乗り換え方法やダイヤ、目的地についてわかりやすく周知を行うことで、利用の促進を図ります。

実施主体

◎地域公共交通会議 / ◎交通事業者

施策3-2 結節点における公共交通の利用に関する案内表示の強化と待合環境の充実

実施概要

結節点では複数の路線が乗り入れ、多くの人が公共交通を利用することから、初めて来た人でもわかりやすい案内表示や快適な待合環境が求められます。しかしながら現状の結節点では、全市を見渡した地図や待合所がなく、どの方面がどのバス乗り場かもわかりにくい状況です。

鉄道と連結する焼津駅や西焼津駅だけでなく、結節点として機能強化した大井川庁舎や、市立総合病院を含めた各結節点で、案内表示や待合環境について改善を図っていきます。



市立総合病院の待合案内（イメージ）

実施主体

◎焼津市 / ◎交通事業者

施策3-3 大井川庁舎における結節点の機能強化

実施概要

大井川地区の再編に伴い、大井川庁舎は路線バス、自主運行バス、デマンドタクシーの発着点となり、結節点としてさらなる機能強化が求められています。このため、大井川庁舎から離れた方でもバスやデマンドタクシーを利用しやすくなるよう、利用者が駐車できる駐輪場スペースを拡大しました。また、交通結節点であることを活かして、庁舎内にしずてつジャストライン㈱の事務所を設置し、敷地内にバス車両の駐車スペースを確保しており、車両回送距離の短縮や運転士の勤務時間の改善を図っています。

今後も運行利用者と協議して、結節点の機能強化について検討を行っていきます。



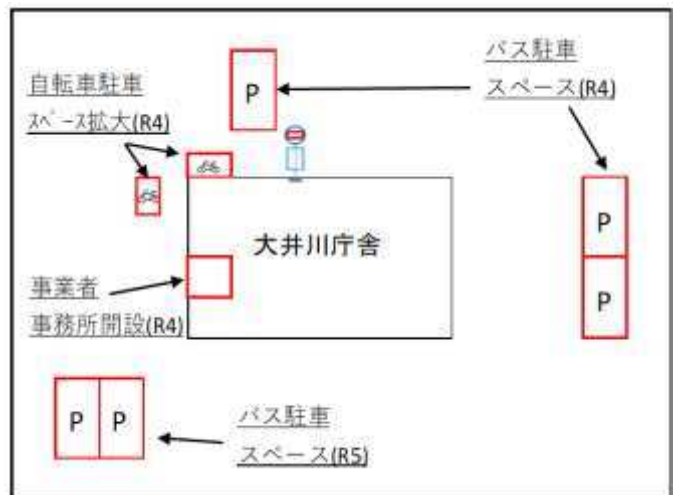
図：サイクル&ライドのイメージ



拡大した大井川庁舎の駐輪場



大井川庁舎のバス駐車スペース



大井川庁舎の整備状況

実施主体

◎焼津市 / ◎交通事業者

【目標4】 交通事業者、地域住民、行政の協働による公共交通の利用促進

施策4-1 利用促進イベントの充実

実施概要

バスに乗ることに対して親しみを持っていただき、広く市民の方に利用していただくため、気軽なお出かけツアー「バスに乗って地域再発見の旅」を実施しています。この企画で初めて自主運行バスに乗車する方も多く、何度も参加する方もいる定番企画となっています。バスの周知だけでなく、地域の史跡や工場見学、市の施設の紹介など、民間団体や企業との協働による利用促進が図られています。

またデマンドタクシーについても、社会福祉協議会と連携して乗車体験を行っており、地域でのお食事など楽しむことで高齢者のお出掛けのきっかけになっており、利用促進策として今後も継続して実施を行います。

「自主運行バス・路線バスに乗って地域再発見の旅」の様子



お出かけモデルコースのHP掲載



くるりん号乗車体験



実施主体

◎焼津市 / ◎社会福祉協議会 / 市内企業

施策 4-2 時刻表や経路検索の改善

実施概要

さまざまな路線や停留所について、誰でもわかりやすく利用できるための改善が必要です。従来は紙媒体の時刻表やマップが中心でしたが、デジタル技術の発展により携帯電話やパソコンなどで確認が可能な電子媒体への提供を行っていきます。

また、紙媒体の時刻表やバスマップについては、特定の地域や施設に利用が可能なダイヤや経路を示す個別時刻表を作成し、目的地に行きやすくなるよう改善と周知を図ります。

市 LINE と事業者HP と連携した経路検索 (令和5年度より実施)



実施主体

◎焼津市 / ◎交通事業者

施策4-3 地域の会合への利用啓発等の実施

実施概要

バスやデマンドタクシーについて、「どこを走っているか分からない」、「予約の仕方が分からない」といった声があります。現在、自治会や民生委員児童委員と連携し、会合やデイサービスなどの場で、デマンドタクシーの乗り方講座を実施しており、今後も積極的に開催していくことで、公共交通の周知と利用促進を図ります。併せて、自家用車から公共交通への転換を促進するため、免許返納やエコロジーに関する広報・周知活動を担当部局と連携して実施していきます。

ミニデイサービスの参加者に出前講座を実施



実施主体

◎焼津市 / ◎地域住民 / ◎社会福祉協議会

施策4-4 さまざまな形態での移動手段の検討

実施概要

近年、NPO法人や地域のボランティアによる運営での自家用有償旅客運送により、高齢者のお出掛けを支援する取組が各地で見られるようになりました。

公共交通を補完するさまざまな形態での移動手段の確保について、地域や関係部局と連携して検討を行います。

浜当目地区の買い物支援



出かけっCAR
(藤枝市)



実施主体

◎焼津市 / ◎地域住民 / ◎社会福祉協議会

施策 4-5 観光振興と連携した公共交通利用の促進

実施概要

観光部局、文化振興部局と連携し、公共交通の観光利用について企画・検討するとともに、市の玄関口である焼津駅における市内観光施設への公共交通によるアクセス方法の案内強化を図ります。また、バス・タクシーを利用して市内の観光名所や店舗などを巡ることが可能な観光マップを、観光部局や交通事業者と連携して作成し、観光振興と連携した公共交通利用の促進を図ります。

市では、ウォーキング（健康増進）、歴史探訪（生涯学習）、観光（買い物・交流・感動）を組み合わせたお出かけ企画「地域再発見の旅」をバスの利用促進イベントとして実施し内容を充実することで、バスの周知とともに、外出機会の創出や市内の魅力の発信を図ってきました。今後も関係機関と連携し、観光振興と公共交通の利用促進に努めていきます。

小川「海蔵寺」



朝比奈川沿いの山の手さくら



「バスに乗って地域再発見の旅」主な企画内容	
焼津の山城・家康ゆかりの史跡巡り	・参加者延べ430名
焼津神社大祭の神事鑑賞と祭りにぎわう周辺散策	・男性約30%・女性約70%
大井川港で学ぶ、食べるしらす漁の水揚げ見学・食堂で昼食	・市外から10%以上参加があった。
焼津名産「なまり節」工場見学	・参加者の多くがお土産の購入や、市内での昼食を楽しんでいた。
山の手さくら鑑賞（ほか林叟院）	・企画によって、子ども連れなど若い年代からも参加が見られた。

実施主体

◎焼津市 / ◎市内企業 / ◎焼津市観光協会

3. 実施スケジュール

目標	施策	実施主体	スケジュール				
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1. 利用者需要や地域ニーズに的確に対応した公共交通の整備	(1-1) 大井川地区における運行内容の見直しと改善	◎大井川分科会 ◎焼津市 ◎交通事業者	検討・調整	準備	実施		
	(1-2) 地域ニーズや利用状況を踏まえたデマンドタクシー等の運行検討	◎地域住民 ◎焼津市 ◎交通事業者	検討・調整・実施				
	(1-3) 商業施設や医療機関等へのアクセス強化	◎焼津市 ◎交通事業者 ◎商業施設・医療機関	検討・調整・実施				
	(1-4) 自主運行バス車両の更新	◎焼津市 ◎地域公共交通会議	検討・調整	実施	検討・調整		
	(1-5) 民間路線バスの運行内容の見直し	◎交通事業者 ◎地域公共交通会議	検討・調整・実施				
	(1-6) 自動運転技術・先進モビリティの導入を目指した研究	◎焼津市 ◎交通事業者	検討・調整・実施				
2. まちづくりと連携した幹線軸と支線による公共交通ネットワークの形成	(2-1) 幹線軸及び拠点間の地域間幹線の維持	◎交通事業者 ◎地域公共交通会議 ◎静岡県	実施				
	(2-2) 利用状況に応じた機能的な支線の運行の維持	◎焼津市 ◎地域公共交通会議 ◎交通事業者	実施				
3. 結節点における乗り換えし易いダイヤの見直し	(3-1) 結節点における乗り換えし易いダイヤの見直し	◎地域公共交通会議 ◎交通事業者	検討・調整・実施				
	(3-2) 結節点における公共交通の利用に関する案内表示の強化と待合環境の充実	◎焼津市 ◎交通事業者	検討・調整・実施				
	(3-3) 大井川庁舎における結節点の機能強化	◎焼津市 ◎交通事業者	検討・調整・実施				
4. 交通事業者、地域住民、行政の協働による公共交通の利用促進	(4-1) 利用促進イベントの充実	◎焼津市 ◎社会福祉協議会 ◎市内企業	実施				
	(4-2) 時刻表や経路検索の改善	◎焼津市 ◎交通事業者	実施				
	(4-3) 地域の会合への利用啓発等の実施	◎焼津市 ◎地域住民 ◎社会福祉協議会	実施				
	(4-4) さまざまな形態での移動手段の検討	◎焼津市 ◎地域住民 ◎社会福祉協議会	実施				
	(4-5) 観光振興と連携した公共交通利用の促進	◎焼津市 ◎市内企業 ◎焼津市観光協会	検討・調整・実施				